

各位

上場会社名 株式会社 小島鐵工所
代表者 代表取締役社長 榎瀨 洋二
(コード番号 6112)
問合せ先責任者 取締役経理・総務部部长 田中 教司
(TEL 027-343-1511)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成31年1月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

令和元年11月期通期個別業績予想数値の修正(平成30年12月1日～令和元年11月30日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり当期純利益 |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 2,200 | 50 | 70 | 50 | 50.00 |
| 今回修正予想(B) | 2,248 | 23 | 44 | 34 | 34.05 |
| 増減額(B-A) | 48 | △27 | △26 | △16 | |
| 増減率(%) | 2.2 | △54.0 | △37.1 | △32.0 | |
| (ご参考)前期実績 (平成30年11月期) | 2,235 | 90 | 113 | 100 | 101.06 |

修正の理由

当社の主製品である大型油圧プレス機は、形状、能力、機能のほか、納期、一台当たりの金額もそれぞれ異なる個別受注生産でありますので、月単位での売上は一定しておらず、季節の変動によるものでもなく、納期的、金額的なバラツキにより売上の変動が大きく、また、当社製品が大型機械ゆえ、設計・生産着手から納品・据付まで平均して1年程度を要するため、受注から売上計上まで相当期間のズレが生じてしまうのが当社事業の特性であります。

このような事業の特性を持つ当社におきまして、当119期通期における売上高につきましては、大型物件2台の工事進捗による売上が貢献し、総額では、前回予想数値22億円を上回る22億48百万円の計上見込みであります。

利益状況につきましては、引き続き原価低減や経費全般に亘る節減に努めているものの、若干ですが想定外の追加費用及び人件費等固定費の増加がみられ、誠に残念であります。当期損益状況につきましては、営業利益・経常利益・当期純利益共に予想数値を下回る見込みであります。

受注状況につきましては、当119期の受注高は、米中貿易摩擦等景気の先行き不安を背景に設備投資に対する慎重さが一段と強まる傾向にあることから、新規大型物件の受注が引き続き伸び悩んでおり、一定の引き合い物件はあるものの前期(51億57百万円)から9億80百万円へと後退しております。

受注残高につきましては、前期末(39億65百万円)に比べ減少しておりますが、令和5年納期予定の大型機械工事物件19億6百万円(前期受注物件)により26億97百万円の大台を確保できております。今後につきましては、交渉継続中の大型引き合い物件の早期成約を始め、新規発足した海外プロジェクトの充実・活用により、一層の受注高の確保と安定した利益展開に向け邁進しているところでございます。

* 上記予想は、現時点に於いて、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以上